

平成 29 年度埼玉県オハイオ州スカラシップ
語学・大学留学コース
「夏の終わり」

皆様こんにちは。時間が経つのは早いもので、今回が 2 回目のレポートになります。こちらでは 9 月 22 日に First Day of Autumn(立秋)を迎えました。立秋を迎えてもなお、暑い日が 2、3 日続きましたが、9 月の最終週には朝晩冷えるようになり、夏の終わりと秋の始まりを感じています。

今回はフィンドレー大学から車で 45 分ほど離れた市「トレド」の様子、大学の授業の様子をお伝えします。

トレド

トレドはフィンドレー大学から車で 45 分ほどのところにあり、オハイオ州の中では第 4 の都市と言われています。トレドは中東から来た人々が多く、イスラム教を信仰している人々が多いと聞きました。イスラム教の方々の礼拝場所である立派なモスクを車の中から見る事ができました。

トレドにはショッピングモールなどの商業施設や、美術館、植物園などがあります。今回はトレド美術館に行きました。私が驚いたところは、特別展示を除き、無料で入館できることです。美術館の維持は寄付やボランティアの協力によっても成り立っているところに驚きました。入り口には寄付を募る箱が置かれており、その中にはコインや 20 ドル札など多くのお金が入っていました。



イスラム教徒の礼拝の場であるモスク



美術館内部の様子

授業の様子

私は現在、学部の 1 年生としてフィンドレー大学に在籍しています。専攻は TESOL(英語を母語としない人々への英語教授法)です。海外、またはアメリカで英語を母語としない人々に英語を教えることに興味がある同級生が多くおり、日本で英語を教えることに興味のある学生も複数人います。授業はディスカッション形式で行われ、事前に提示された論述形式の問題にインターネット上で回答し、それを基に授業が行われます。ディスカッションでは自分の考えがうまく表現できず悔しい思いをし

たこともあります。その度にもっと英語を勉強しなければ、と身が引き締まります。英語が思うように話せないことでクラスメイトに迷惑をかけているのではないかと心配になったこともあります。

先日、先生から日本の塾について授業内で紹介してほしいという要望を頂きました。プレゼンテーション後に先生や学生が多くの質問をしてくれたことがとても嬉しかったです。私は小学生の頃、学校の先生に「質問は発表者に対する礼儀である」と教えていただきました。質問することは、発表者の話を自分で考えながら聞き、その話に興味があることを示すものであるからです。私のつたない英語を理解し、私の話に興味を持ってくれたこと、違うバックグラウンドを持っていることで授業に貢献できたことをとても嬉しく思いました。

質問を受けることで自分の考えを深めると同時に、新たな発見もありました。日本では「当たり前」であることがアメリカではなじみのないものであり、多くの説明が必要であったところです。これからも日本についての情報発信や、自分だからこそできることを探しながら英語力を伸ばしていきたいと考えています。

